

The 2 Chome Times 平成30年7月号

NO1のプレミアムストリートをめざして




NO242.

2018・7・25

発行 神戸三宮センター街2丁目商店街振興組合 (tel331-3091) (fax333-8591)

2丁目タイムス7月号

編集：企画・商業振興部、編集長：芹澤邦明 <http://www.centergai2.com> E-mail:centergai2@nifty.com

 フェイスブックでも発信しています <https://www.facebook.com/centergai2/>



2丁目目でKOBE Free Wi-Fi ご利用いただけます

★平成30年 沖縄全戦没者追悼式

毎年、6月23日は沖縄戦で犠牲になった方々の御霊を慰め世界平和を誓う「慰霊の日」で、「沖縄全戦没者追悼式」が糸満市摩文仁の平和祈念公園で開催されます。今年も神戸の街衆からは久利会長他6名が参列し、戦争による惨禍が再び起こることのないよう、恒久の平和を願いました。副知事の開式の辞によって式典は厳かに始まり、県会議長の式辞の後、正午の時報に合わせ参列者全員で黙祷を捧げました。式典のなかでは、県平和祈念資料館が募った1000点近い「平和の詩」の中から選ばれた中学3年生・相良倫子さんの詩が朗読されました。「自然豊かな現在の島の情景と、戦時の悲惨な様子を対比させた詩」は、戦時を生き抜いた曾祖母から聞いた体験を基に作られたそうです。詩そのものが優秀であることは勿論ですが、相良さんの表現力豊かで力強い声が式場に響き渡り、目を閉じて聴き入る参列者の姿も見られました。式典の後には引き続き、同公園内で「島守の塔」慰霊祭に参列し、平和を祈願しました。来年もKOBE夢・未来号プロジェクトで子供さん達とこの地を訪れることを思い、子供達と共に沖縄の文化、歴史、そして平和について学ぶことの大切さを再認識しました。



★行ってきましたラグビーワールドカップ前哨戦

先日の6月16日に神戸ノエビアスタジアムで行われましたラグビーテストマッチ：日本対イタリア観戦に行っていました。当日は晴天で、また先週大分で行われた第一戦で34対17のダブルスコアでジャパンが快勝したため多くの観客がノエビアスタジアムに訪れ、我々がジャパンラグビーチームを熱い想いで応援しました。残念ながら22対25で惜敗。無駄な反則が多くて自滅の感があり、実力的にはイタリアを上回っていたと感じています。でも大いに盛り上がり素晴らしい試合でした。しかしながら運営に関して大いに改善しなければいけないと感じたことがあります。来年のワールドカップでここノエビアスタジアムで



は4試合が予定されています。全世界から多くの観客が神戸にやってきました。特に今回感じたのは輸送力の未熟さです。最寄駅の御崎公園駅までは三宮から地下鉄湾岸線で約15分ほどですが、一回に乗車できる人数は限られており、混雑時には相当待たせられると予想されます。またJRの最寄駅、兵庫駅には徒歩約30分かかりとても不便です。シャトルバスの運行などの輸送力の強化が急務だと感じました。また御来神の方々に大いにホスピタリティーを発揮することも忘れてはならないことです。神戸の街衆で来年のワールドカップラグビーを盛り上げましょう。



★読書の夏？です

連日サッカーワールドカップで盛り上がる中、遅くまで起きていますのでつつい読書などして、今回2冊の本に感銘を受けたのでご紹介します。まずは：沖縄に学ぶ 神戸からの「うちなあ見聞録」：作者は

久利計一理事長です。沖縄タイムスからの要望で一年間エッセイとして掲載されました。私が最も感銘を受けたのは「神戸と沖縄の絆」のコラムで沖縄での人と人との繋がりの素晴らしさ、一期一会の大切さを綴ったコラムでした。その他にも沖縄の文化・伝統・習慣にも触れた「沖縄に学ぶ」は美しい挿絵と共に一気に読破できお勧めです。

2冊目は「敗れても 敗れても 東京大学野球部百年の奮戦」。作者はノンフィクション作家の門田隆将さんです。当初この本に目が行ったのは昨今の日大アメリカンフットボール部の危険タックルの問題で学生スポーツはどうあるべきなのかを思っていた時に出会った本でした。しかしながらこの本の第一章で熱く語られていたのは沖縄に散った英雄 島田 勲さんの事でした。官選沖縄知事時代に沖縄の方に寄り添って島守としての島田 勲さんの行動は数々の資料や本を通して理解していました。この一冊はその原点が神戸2中（現在の兵庫高校）時代から三高（京都大学教養学部）東京帝国大学を通して野球部に所属した島田さんのベースボールに対しての熱い想いやその中でいかに人格形成が行われていったかが詳しく述べられており、沖縄県知事としての行動の原点が垣間見ることが出来て感銘を受けました。学生スポーツの意義がここにこそあると思えました。夏の夜長？お勧めです。



★神戸医療産業都市の更なる進化へ！

タイムズではこれまでポートアイランドに医療機関が集積してきており、これは神戸がそのインフラを生かし、発展して行くための重要なプロセスになっている事をお伝えしてきました。神戸医療産業都市構想がスタートして20年になるそうですが、この4月に「公益財団法人先端医療振興財団」から「公益財団法人神戸医療産業都市推進機構」へと名称を変更し、新組織での運営が開始されています。この神戸医療産業都市推進機構はこれまで340を超える企業・団体・研究機関が集積するのに寄与してきました。新機構はこれらの集積がより強く連携、融合して、革新的医療技術の創出や神戸経済の活性化、市民福祉の向上、国際社会への貢献というさらなる役割を担っているのだそうです。久元神戸市長は今回の改組により「神戸医療産業都市がより大きく世界へ向けて発展していくことへの期待」を寄せられています。最近、神戸のイメージが以前よりぼやけて来て、関西での三都の中での位置付けが大阪や京都に比べて落ちて来ています。しかしながら実際、「医療」を中心にしたこの動きが加速して行けば日本だけではなく、世界に誇れる「先進医療都市神戸」という素晴らしいイメージが確立する事になります。自分達が住んでいる街が神戸であるという「幸運」と「誇り」を手にする事ができます。これからの発展にますます注目です。



★編集後記

西日本を中心にした大雨による災害で亡くなられた方々に心から哀悼の意を表明すると共に、甚大な被害を被られた方々が少しでも早く日常生活を取り戻される様に願っております。街創り協議会ではその構成15団体からそれぞれ2万円をご寄付頂き、今回の被災された方々への義援金として、合計30万円をそごう神戸様に託し、広島にお届けする運びとなりました。「天災は忘れた頃にやって来る」とは言いますが、昨今の傾向では、まだ記憶の新しい内に「またか」という感覚に近いと思います。もはや「想定外」という言葉は存在しないのと同じではないかと感じてしまいます。それでも人間は弱い生き物なので「自分にだけはないだろう」と考えがちですよね。起こってからではなく、起こるものとして考えていくことが、災害や犯罪から被害を最小限にしていく術なのでしょう。これからの毎日の生活の中で忘れずに頭に入れておきたいものです。私達神戸の人々は23年前の大地震にお寄せ下さった多くの方々の温かな眼差しを忘れません。